

日本地衣学会

ISSN 1347-3085

No.109

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次 第10回大会（神戸薬科大学，2011年7月9 - 10日）報告／棚橋孝雄……………
……………401

第10回大会（神戸薬科大学，2011年7月9-10日）報告

Report of the JSL 10th Annual Meeting at Kobe, 9 - 10 July 2011/ by Tanahashi T.

>>>>> 棚橋孝雄（大会実行委員長，神戸薬科大学）

7月初旬の猛暑の中，地衣学会第10回大会を神戸で
開催し，盛会のうちに無事終了しましたので，報告致し
ます。梅雨時で心配された天候も持ちこたえ，暑い中で
の大会となりました。おかげさまで多数のご参加を得て，
盛会のうちに無事終了しましたので，報告いたします。

* * *

大会概要

会場：神戸薬科大学 4号館4階（K440 講義室）

会期：2011年7月9（土），10（日）

プログラム

7月9日（土）

11:00-12:30 評議員会（K441 講義室）

12:30-13:15 昼休み

13:15-14:00 総会

14:00-14:15 休憩

14:15-16:45 シンポジウム「地衣学の過去・現
在・未来」

16:45-17:15 学術奨励賞・受賞講演

18:00-20:00 懇親会（CHEZ DONQ）

7月10日（日）

9:25- 9:30 開会の挨拶

9:30-12:00 一般講演 A

12:00-13:00 昼休み

13:00-13:45 特別講演

Initiative of Lichen Genomics:
Comparative Genomics of *Cladonia*
metacoralifera

(Jongsun Park*, Jung-A Kim**, Jong
Bhak*, and Jae-Seong Hur** (*Personal
Genomics Institute, Korea, **Korean
Lichen Research Institute, Suncheon
National University, Korea)

13:45-14:00 休憩

14:00-15:45 一般講演 B

15:45- 閉会の辞

大会参加者 38名（一般29名，学生9名）

懇親会参加者 30名

初日（7月9日）

今回は節目となる第10回大会ということで、第1回大会と同様、神戸薬科大学での開催となりました。第1回大会の記憶の中に「体調不良になるくらい、暑かった」という思いがあり、今回も暑さが大きな懸念材料でした。前々日の7日には雨模様で比較的気温も低かったのですが、当日には（幸運にも？）好天になり、気温も一気に上がって、またもや猛暑の中での開催となりました。会場である神戸薬科大学は、阪急岡本駅またはJR摂津本山駅より、徒歩約20分の距離ですが、急斜面の上にあることから、参加者には大会前に“登山”で汗を流して頂きました（第1回大会にも来学された方々の中には、教訓を生かしタクシーで来られた方や早朝に来られた方もおられるようですが…）。さらに今年は「節電の年」で、学内の空調の温度が高く設定されていたため、評議員会室、休憩室が冷えず、皆様には暑さに耐えて頂きました。午前中の評議員会は、遠方からの参加者に配慮して開始時間を遅くしましたが、活発な議論が展開されたため、予定時間を超過して13時過ぎまで（約3時間）行われました。昼食もそこに13時15分より行われた総会は、滞りなく順調に終了しました。

ここで、休憩。今回は、厳しい暑さに配慮して、水分補給の休憩時間を多く設定しました。

14時15分からのシンポジウムは第10回記念大会ということで、「地衣学の過去・現在・未来」をテーマに、歴代の会長と編集委員長に講演をお願いしました。まず、吉村庸先生に日本地衣学会を設立するまでの経緯と将来の地衣学研究の発展へ

の期待についてお話いただき、次いで、原田浩先生には、地衣の分類学の立場から、これまで取り組んできた1. 日本産地衣類のチェックリスト、2. 図鑑の改訂、3. 研究体制の強化と分類学者の育成の3つの課題における過去10年間の進展と将来への展望についてお話いただきました。高橋邦夫先生からは、医薬品や染料として古くから利用されてきた地衣成分と人類の関わり、化学的手法の発展に伴う地衣成分の構造決定や合成研究の歴史、さらには生合成や生理活性など、地衣成分に関する研究内容を幅広く概観し、今後の地衣類の天然（遺伝子）資源としての可能性が述べられました。最後に山本好和先生は、地衣類の培養法と地衣類の再形成・再合成研究に関する話題について、また地衣類にとって生理学的に重要な極限耐性研究について、過去の業績を紹介しながら、今後の夢について講演されました。第10回記念大会にふさわしく、地衣学と日本地衣学会のこれまでの歴史を振り返り、これからの将来を展望するシンポジウムとなりました。

16時45分からは、昨年の大会で「学術奨励賞」を受賞された小杉真貴子さんに「共生藻から見た、地衣菌



図1. 乾杯の音頭をとる吉村元会長.

との共生関係」というテーマで、博士課程で行った研究に、現職での新たな研究成果を加えた講演をおこなって頂きました。

「学術奨励賞」が制定されて、今回初めて行われた受賞講演でしたが、発表後には活発な質疑が繰り広げられ、受賞講演の意義がおおいに感じられました。

1日目の大学での予定の終了後には、会場を岡本駅付近に移し、“神戸”を意識して、パン屋(DONQ)でビュッフェ形式の懇親会を行いました。高橋会長の挨拶に続いて、吉村元会長(図1)に乾杯の音頭をとっていただき、ビールやワインを飲みながら、楽しく会話が弾み、懇親を深めることができました。予定の時間が過ぎても、会話は途切れることがなく、やむなく閉会にせざるを得なかったのが心残りです。

二日目(7月10日)

二日目には、一般講演と特別講演が行われました。午前中は一般講演9演題で、そのうち6演題は、生合成、構造決定や活性など成分に関するもので、残り3演題は遺伝子関連のものでした。午後からは第10回大会ということで、海外の研究者を招待して特別講演会を行いました。Hurさんから推薦を頂き、新進気鋭の Jongsun Park (Personal Genomics Institute, Korea) 氏に「Initiative of Lichen Genomics: Comparative Genomics of *Cladonia metacoralifera*」の演題で講演していただきました。*Cladonia metacoralifera* のゲノム・シークエンスの最新の成果を紹介され、印象深い講演会となりました。今後、地衣学の様々な分野で研究を発展させる上で、ゲノム解析が重要性をもつであろうことを強く予見させるものでした。



図2. 発表される柴垣さん.



図3. 発表される草間さん.

この後、コーヒープレイク(女性スタッフの竹仲さん、神前さんの配慮により、“神戸スイーツ”を堪能してもらうために、ケーキも用意しました)をはさみ、午後の一般講演、分類関連の7演題が行われました。その中に特筆すべきものとして、岐阜県立加茂高校生、柴垣さんの発表(図2)がありました。地衣類に関心を持つ若い人がいることは心強いことであり、地衣類を題材としな



図4. 学生A賞を受賞された皆さん.

から、多様な研究内容について、様々な人がおこなう研究発表を聴くのは楽しみでありました。

最後に、閉会式において、学生A賞の新井靖子さん（明治薬大）、Le Hoang Duyさん（神戸薬大）、下野優子さん（関西大）、Jung A Kimさん（Korean Lichen Research Institute）、吉谷 梓さん（秋田県

立大）、草間裕子さん（秋田県立大）の6名（図4）と学術奨励賞のLUO Hengさんの表彰が行われ、次回、筑波大学で開催される第11回大会での再会を約して、全ての予定が無事終了致しました。今大会の参加者、講演者、ならびに運営にご協力いただいた全ての皆様に感謝致します。

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 109, pp. 401-404: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 30 November 2011.

日本地衣学会ニュースレター 109号

発行日：2011年 11月 30日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒203-0021 東京都清瀬市野塩 2-522-1

明治薬科大学 生薬学教室内

©2011 日本地衣学会 (© 2011 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。